

古典紹介・解説

皇甫府君碑⑥

橋本 圭風

皇甫府君碑もアツと云う間に今号で最終回となります。この碑を初めて取りくんだ人、何度も書いているベテランの方、それぞれ半年間の成果があつたと思います。

楷書は誰が見ても上手下手がわかりやすく、まずは形を正確に取ることから始め、その上でその碑の持つ線の特徴（穏やかなのか、キリつとしているのか）をとらえなくてはいけません。それには筆の角度、墨の量、早さ等、いろいろ試して自分にあつた工夫が必要です。それには習っている先生の書いている所を見るのが一番分かり易いでしょう。

次回からはまた新たな楷書に挑戦です。
頑張りますよう

集字聖教序⑥

畠中 香風

「集字聖教序」も今号でひとまず終了となります。王羲之の文字を拾い集め一つの文章に纏めあげ、更に楷・行・草が混在した特異な碑のため、全体の流れ、筆脈を通す等、一貫性を持たせるのに皆さん苦労されたのではないのでしょうか。

書聖王羲之の様々な名品のダイジェスト版ともいえるようなこの碑を学んだことで蘭亭をはじめ、今後王羲之の書を学んでいく上で大変得るものが多かったことと思います。検定を受ける皆さんは、半年間の成果を十分に発揮されますよう期待しております。